

第2回こども文化科学館展示リニューアル検討委員会 議事要旨

1 委員会名称

広島市こども文化科学館展示リニューアル検討委員会

2 開催日時

令和5年1月27日 10時～12時

3 開催場所

広島市こども文化科学館 2階会議室

4 出席委員等

(1) 委員 (◎は委員長)

◎ 広島大学大学院人間社会科学研究科 教授	磯崎 哲夫
大阪市立科学館 副館長(兼)総務企画課長	吉岡 克己
一般社団法人広島県発明協会 常務理事・事務局長	熊野 弘子
広島市立城山中学校長(広島市中学校理科部会長)	原田 忠則
広島市立八幡東小学校長(広島市小学校理科部会長)	久保田 祐徳
広島市地域活動連絡協議会(母親クラブ)	瀬戸口 ひとみ

(2) 事務局

広島市文化振興課

5 議事

(1) 意見交換等

- ・ 事務局説明
- ・ 意見交換

(2) 今後の進め方について

6 委員会資料名

- ・ 議事次第(資料1)
- ・ 第1回広島市こども文化科学館展示リニューアル検討委員会 議事要旨(資料2)
- ・ 広島市こども文化科学館展示リニューアル基本構想策定に関する資料 本編(資料3)
- ・ 広島市こども文化科学館展示リニューアル基本構想策定に関する資料 資料編(資料4)
- ・ 別冊 アンケート集計(資料5)

7 発言要旨

(1) 事務局説明に対する質疑

【委員】(常設展示について)「驚き・夢・ロマン」が館のコンセプトとしてあったと思うが、今回はどう整理しているのか。

【事務局】コンセプトの「驚き・夢・ロマン」は継承しつつ、「驚きと不思議」「発見と学び」「創造とチャレンジ」を展示展開の考え方として整理している。

【委員】(ソフト事業について) 簡易プラネタリウムは現在所持しているのか。

【科学館】所持していない。

【委員】こども図書館との連携事業は何か行っているのか。

【科学館】科学館と図書館は、校外学習における一連の見学コースとして利用されている。

(2) 意見交換

[ア] 展示リニューアルの方向性 (修正案) について

【委員】

(「参加体験型の展示の更なる充実」について)

- ・最後の目的が「学習につながる」では不十分な気がする。例えば「創造につなげる」など、より発展的なものが望ましい。

→磯崎委員長が文章を再検討し、その修正案で各委員に諮ることとする。

(「広島らしさの魅力発信 (地元企業との連携強化等)」について)

- ・小学校高学年以上が地域の企業を調べるきっかけとなるような展示になるとよい。例えば、今の子どもたちは一人1台タブレット端末を持っており、QRコードで自ら調べられるような仕組みなどが考えられる。
- ・企業紹介は中学生以上が来館する動機になるので是非行ってほしい。
- ・小学生の視点だと「スポーツ科学」を取り上げてほしいと思う。プロスポーツが盛んであることも広島の魅力のひとつだと思う。
- ・企業と連携した展示を設ける場合、展示物の持続性をどう担保するか整理しておいた方がよい。展示更新や故障した際の費用負担をどうするか、単に企業のコマーシャルになっていないかなど、他館でも課題となっている。

(「子どもを中心としつつも、幅広い世代が、科学を楽しみ、学べる展示展開」について)

- ・「特に保護者」という言葉を入れると誤解を招く恐れがあるため、必要ないのではないかと。
- ・「より深い学びのための交流機会等の充実」「社会的な課題に対する学びの充実」については概ね異議なし。

[イ] 常設展示について

【委員】

(展示分野のイメージについて)

- ・展示分野に化学が入っていない。化学は実験のイメージがあるが、原子や分子の構造なども重要である。バッテリーや発電など、科学技術にも化学の関わりは大きい。
- ・物理のみを特記するのではなく、理学という括りはどうか。物理、化学だけでなく、最近の授業に情報が追加されていることも考えると、数学的要素も必要なのではないか。
- ・今後、他館との連携を考える場合、他館と被らない特色のある展示分野が必要である。
- ・「物理」というワードがとっつきにくい。

- ・「広島市こども文化科学館で主として取り扱う分野」は「物理」「工学」「天文」であるとするイメージ図は目立ちすぎるため、この図はない方が違和感がなくてよい。

(展示展開の考え方について)

- ・学習指導要領では「探究」が重視されているが、ここ数年の自由研究の充実度をみると、探究力は後退気味にある。「工夫」や「発見」が科学館に来るとわかるというような要素があるとよい。
- ・自由研究や発明展は保護者の頑張りに依存しているのが現状である。小学校の授業だけで探究力を積み上げていくことはなかなか難しい。
- ・中学生になると保護者が関わらなくなるため、科学塾に通う生徒など、自由研究の応募があるのは一部の生徒からである。
- ・「創造とチャレンジ」を「創造と探究」に変更するのはどうか。「チャレンジ」だけ他とトーンが異なるように思う。この3段階のステップを踏んだ後に「チャレンジしよう」ということになるのではないか。
- ・「驚きと不思議」→「発見と学び」→「創造とチャレンジ」の3段階全体が「探究」の過程であると言える。これが可視化できるよう、矢印で示すなど工夫してはどうか。
- ・「スタッフとの交流」を前提とする展示展開にするかどうかポイントになってくると思う。前提としないのであれば、この段階（創造とチャレンジ）で明記する必要はないかもしれない。
- ・スタッフとの交流はどの段階でも必要であるため、3段階目（創造とチャレンジ）に特記する必要はないのではないか。
- ・交流はスタッフに限定しなくてもよいのではないか。連携事業で外部の人と交流することもある。「共有」という言葉も引っかかる。
- ・「スタッフ」「共有」という言葉を削り、疑問・ひらめき・発見の過程を通して学びを深化するという内容でよいのではないか。
- ・スタッフとの交流は展示リニューアルのポイントでもあり、ぜひ行ってほしいが、展示展開への記載は再検討してほしい。
- ・これからの教育は子どもから大人に問いかけることを重視している。そのために、疑問を引き出すきっかけとなるようなものを用意できるとよい。
- ・3段階の展示展開の考え方については概ねこれで良いが、説明の文言についてもう少し検討の余地があると思う。

[ウ] 企画展示、プラネタリウム事業について

【委員】

- ・企画展での企業紹介は企業側も期待していると思う。
- ・プラネタリウムのドームスクリーンはぜひ更新してほしい。
- ・天体を大人が学べる授業、サイエンスカフェのようなことを行ってほしい。

[エ] ソフト事業について

【委員】

- ・簡易プラネタリウムの出張事業は、子どもたちに人気なので是非取り入れてほしい。一方で、機械の操作が難しいので、通常の事業運営と並行して出張事業を行うには、スタッフの育成や人員のやりくりが課題となる。
- ・学校には年間のカリキュラムがあるので、科学館と学校が連携を行う場合には、遅くとも年度初め、できれば実施の前年度中に相談させてもらえるとありがたい。

[オ] スケジュールについて

【委員】

- ・工事のための休館期間中には、例えば学校へ展示物の貸出を行ったり、出前授業を実施するなど、できることをしてほしい。

(3) 今後の進め方について

【事務局】 次回、2月6日に第3回検討委員会を開催する予定としていたが、本日までの検討委員会で、基本構想全体についてご議論いただきました。次回は、メール等で意見交換する形（書面会議）に代えさせてもらいたいと考えるがどうか。

【委員長】 次回の検討委員会はメール等による書面会議とする提案があったがよろしいか。

【委員】 異議なし。

→第3回検討委員会は書面会議により開催することとした。

（第2回検討委員会における意見等を踏まえ、委員長が資料の修正案を提示し、これについて、意見交換することとした。）